

イタリアに吹く解散風

発表日：2017年5月30日（火）

～議会選は秋に前倒しか？～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ 来年春の総選挙実施がコンセンサスとなっていたイタリアでは、ここにきて主要政党が選挙制度改革で合意に近づいており、秋にも前倒し選挙が行なわれるとの見方が広がっている。半数を比例・半数を小選挙区で選出する改正案は、小選挙区に強い民主党に有利に働くとみられるが、足きりラインの5%への引き上げで連立を組む少数政党が議席を失う可能性が高く、主流派政党の合計獲得議席が50%に届くかは予断を許さない状況。選挙前のイタリア政局不安の高まりは避けられない。

イタリアの現地紙は29日、主要政党が選挙制度改革で合意に近づいていると報じ、秋にも議会選が前倒しされるとの見方が浮上している。与党・民主党（PD）が提案した改正案（提案した議員の名前を採ってRosatellumとも呼ばれる）は、定数の半数を議席獲得に必要なボーダーラインを5%に設定する比例代表制で、残りの半数を小選挙区制で選出する。フォルツァ・イタリア（FI）を率いるベルルスコーニ元首相は民主党の改正案よりも比例色を強めた制度改革であれば賛成する意向を伝えたとされ、28日には五つ星運動（M5S）が党员投票を行い、賛成27,473・反対1,532で改正案に賛成することを決定した。こうした提案には5%の足きりで議席を失う可能性が高い少数政党が反発を強めているが、3党合計の上下院の現有議席は過半数を上回る（図表1）。さらに、北部同盟（LN）も早期の解散・総選挙を実施することを条件に改正に応じることを示唆している。今後細部を詰める過程で意見対立が表面化することも考えられるが、党内で大規模な造反がない限り、改正法案が議会を通る可能性が高まっている。

議会の解散権を持つマッタレラ大統領は、これまで総選挙前の選挙制度改革を求めてきた。新たな選挙制度の下で前倒し解散に応じるかは大統領の判断に委ねられるが、大統領の出身母体である民主党を含め、主要与野党が揃って早期解散を求めた場合、大統領がこれに反対する理由は見当たらない。来年度の予算審議が秋の選挙実施の障害になるとの見方も一部にあるが、イタリアは来年度予算案の編成にあたって欧州委員会から追加の緊縮措置を要求される可能性があり、民主党内には予算編成前の選挙戦をむしろ歓迎する意見もある。党分裂後の世論調査で民主党は五つ星運動に逆転を許したが、先の民主党党首選でのレンツィ前首相の大勝後、再び民主党の支持率が五つ星運動に追い付いてきた（図表2）。現在検討されている選挙制度改革案では、定数の半分が民主党に有利な小選挙区制となるため、民主党は世論調査が示唆する以上に勝利する可能性が高いと踏んでいるのだろう。ただ、この点は反体制派の北部同盟も小選挙区制の選挙に強いとみられ、民主党の思惑通りに議席を上積みできるかは不透明だ。

議席獲得に必要な比例票の最低ラインを5%に引き上げた場合、現在の世論調査では大多数の少数政党が議席を獲得できない（図表3）。現在と同じ3%に設定された場合も、多くの少数政党が議席を失うことになる。こうした点を考慮に入れると、比例票部分については、非主流派政党が主流派政党の合計獲得

議席を上回る可能性が高い（図表4）。小選挙区部分で民主党がどれだけ票を上積みできるかが、最終的な選挙結果を左右しそうだ。このところの民主党の追い上げを考えると、全体の獲得議席は主流派政党が非主流派政党を上回る展開を想定している。万が一、非主流派政党の合計獲得議席が上下両院で50%を上回った場合も、政権発足には五つ星運動と北部同盟の連立が必要となり、そのハードルはそれなりに高い。連立協議が暗礁に乗り上げたり、上下両院の多数派が食い違う場合には、再選挙の可能性が高まろう。

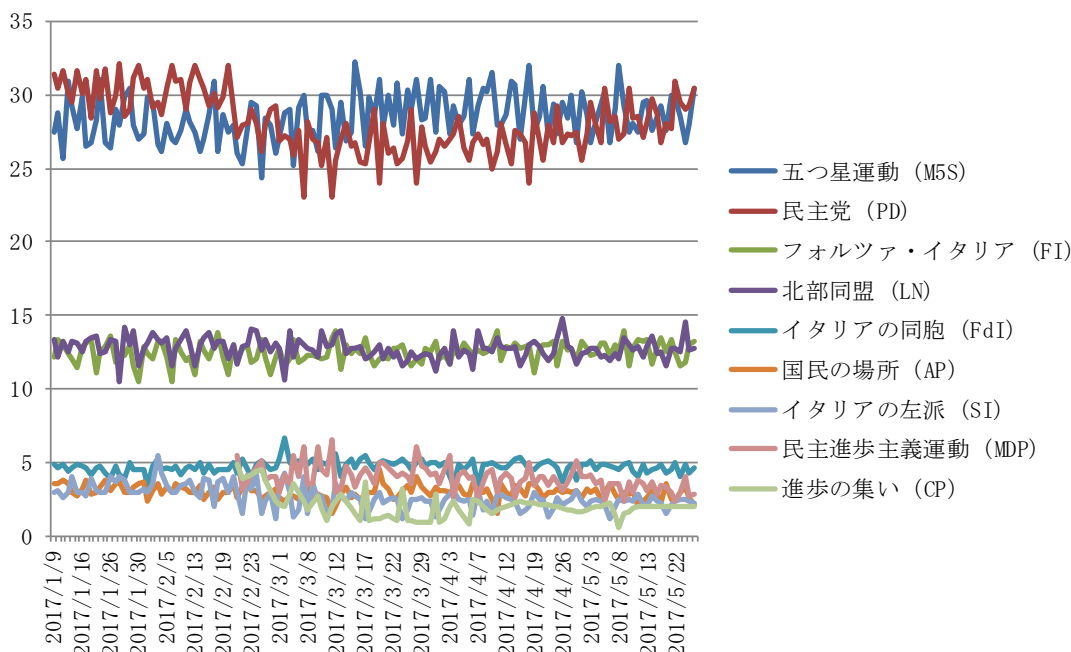
（図表1）イタリア議会の会派別議席

	下院	上院
与党	394	169
民主党（PD）	282	99
国民の場所（AP）	27	25
民主進歩主義運動（MDP）	40	15
その他与党	45	30
野党	236	151
フォルツァ・イタリア（FI）	50	42
五つ星運動（M5S）	88	35
北部同盟（LN）	19	12
イタリアの同胞（FdI）	11	0
その他野党	68	62
定数	630	320
過半数	315	160
PD+FI+M5S	420	176
PD+FI+M5S+LN	439	188

注：上院の定数は終身議員を含む

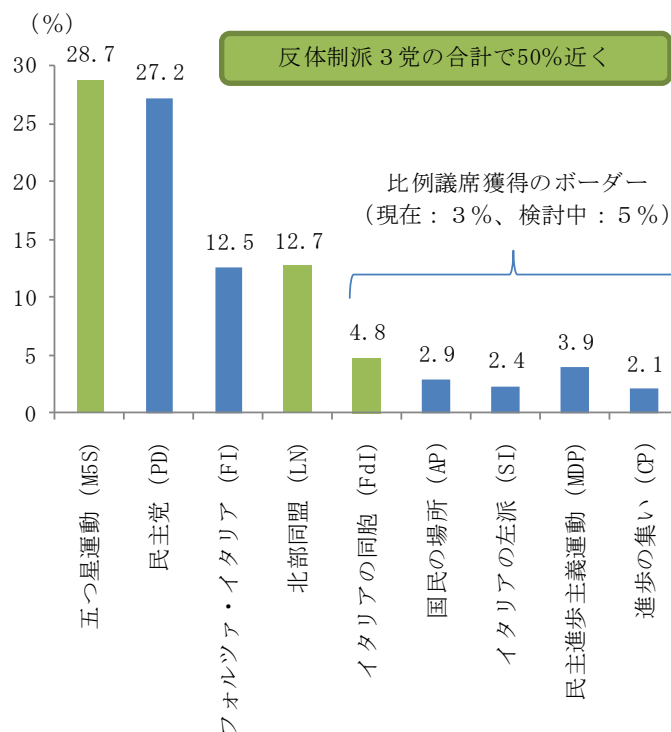
出所：イタリア議会資料より第一生命経済研究所が作成

（図表2）イタリア政党別支持率の推移（％）



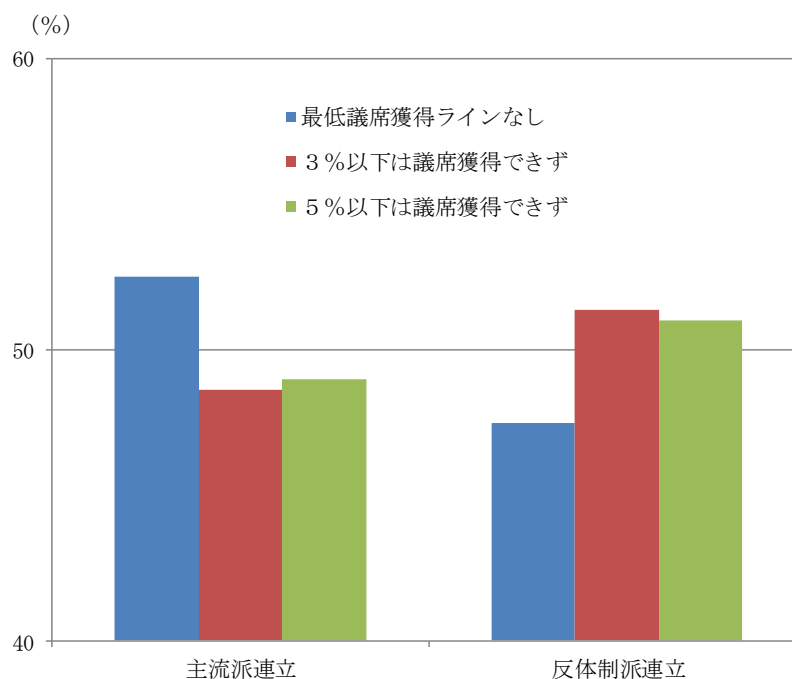
出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

(図表 3) イタリアの政党別支持率 (民主党分裂後の平均)



出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

(図表 4) イタリアの連立組み合わせと予想獲得議席 (比例票部分)



注：反体制派は五つ星運動・北部同盟・イタリアの同胞、主流派はそれ以外。
民主党分裂後の世論調査の平均値。議席獲得政党で比例票を再集計。
出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

以上